

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員研修の中で事業所の理念に触れ、理念に基づいた目標を掲げている。	法人の理念である「誠意を尽くす」を踏まえて、各ユニットで目標を掲げ、日々のケアサービスの中で理念、目標を共有して実践に繋げている。事業所のパンフレットに明記してある暮らしぶりの一つに『入居者同士、家族、スタッフ、地域の人々との「なじみ」の人間関係作り』等を大切にされた地域密着型サービスを目指している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議には地域住民の方から多数参加いただいている。また、町内の会合や行事にはできるだけ参加する様に心がけている。	事業所は4年目を迎えた。地域周辺住民と日常的に交流しやすい立地条件にあり、町内会にも加入して馴染みの関係が築かれている。地域の夏祭りには利用者も参加し楽しい交流の場になっている。また、高齢化している地域でもあり、事業所の集まりに関心のある高齢者が立ち寄ってくれ、世間話等が気軽に交わされるなど地域の溶け込んで来ている様子が窺える。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の自治会、民生委員との連携を図り、相談窓口となっている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月毎に定期的開催しているが、こちらからの報告や取り組みについて意見交換をし、様々なアドバイスや意見をいただいている。会議の内容については職員にも伝達しサービスの向上、改善に努めている。	会議は定例化されている。定例事項の他に具体的な課題(防災避難場所等)も討議され、活発な意見要望が出される大切な場になっている。メンバーの中には、事業所に関心のある地域住民(高齢者)が複数参加し、終了後の懇談茶話会を盛り上げている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	事業を運営する上で疑問点等を伝え、助言をいただく等、連携を取っている。	行政担当者には、事業所の実情やケアサービスの取り組み等を機会あるごとに伝えていく。運営推進会議には地域包括支援センターの職員がメンバーとして継続参加しており、協働関係が築かれている。今後、行政担当者からも直接事業所に足を運んでもらえる機会を作りたいと考えている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日中、ユニット出入り口、玄関の施錠は原則的には行わず閉塞感を与えない様に努めている。但し階段につながる出入り口については、転落の危険が大きいため普段は施錠しエレベーターの使用をお願いしている。	昨年、帰宅願望が強い利用者の離設の事例があり、施錠について、事故報告書等をもとに検討が重ねられている。時間を決めての施錠や夜間にベッド下にセンサーを設置して利用者の安全を図っている。その際は、家族にも報告して了解を得ている。また、研修でセンサーを利用している事例等の検討を重ねて身体拘束をしないケアを目指し取り組んでいる。	
7	(5-2)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内の虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者、職員とも研修等を通して学び対応防止に努めている。	月1回、ユニットミーティングを開催し、職員のストレスが不適切な行為に繋がらないように、また、担当者の抱え込み等がないように、お互い言いたいことが言える話し合いの場になっている。外部講師による虐待防止の研修を受講し、常に虐待が見過ごされることがないように努めている。今後は、発見した場合のフローチャート作りや虐待防止のための仕組み作りの必要性を考えている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者、職員とも研修等を通して学び、利用者様、ご家族様の支援ができる様に努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に重要事項の説明を行い、ご質問等にはお答えし理解・納得をいただいている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置し意見を伝える事が出来るようにしている。運営推進会議に家族より参加いただき意見・要望等を直接聞く機会を設けている。	日常的に利用者、家族等から意見要望が得られるような機会を大切にしている。外部評価のアンケート結果による意見要望について、職員会議や運営推進会議等で明らかにして、可能なものから迅速かつ真摯に運営に反映できるよう目指している。	利用者、家族から得られた意見、不満、苦情等は大切な宝である。今のところ、意見箱や法人苦情相談等の活用があまりみられないが、日常的に得られる意見要望等を可視化して全職員で前向きに受け止め、サービスに反映させていく取り組みが望まれる。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は朝礼、会議、ミーティング等を通し職員からの意見等を聴き吸い上げるように努力している。また管理者は会議を通して代表者に対して職員の意見等を伝える機会がある。	日々の朝礼、月1回の職員会議、ユニット会議は定例化している。利用者への挨拶対応の仕方、個々の仕事への方向修正等、職員の意見や提案を運営に反映させるよう努めている。年1回、職員との個別面談の機会があり、職員の悩みを聴きだしたり、資格取得を目指す職員には働く意欲やサービスの質の確保に繋がられる支援体制が整備されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は全職員に資格取得を奨励し資格取得者には祝い金や資格手当を支給し、励みとなるような制度を設けている。また夏季休暇冬季休暇をそれぞれ3日ずつ支給している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人全体で職員教育の為研修制度を設け力量に添った研修を受ける事ができるようにカリキュラムを組み立てている。外部研修も随時予定している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者や職員は様々な研修を通し同業者と交流する機会がある。互いに見学や意見交換を行いネットワークを広げ交流している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前訪問等をし家族の意見や本人の気持ちを伺い、安心して暮らせる為の関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に家族と話し合い、今までの生活状況や不安に思っている事等を聞き取りながら関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族の思いが異なることもあるが、間に入って調整しながら方向性を見つける努力をしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は入居者の生活を支えるという事を重視し、本人のできる事、介助すればできる事を見極め、生活全般に関わる事に対しその方に応じた支援を行っている。		
19	(7-2)	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ホームでの様子を居室担当者よりお便りという形で月に1回家族に報告している。また居室担当者を中心に家族と連絡をとり共に支えていく関係づくりをしている。	毎月発行される「ふれあいだより」(写真入りカラー刷り)と共に、各担当者の顔写真入りで利用者個々の生活面、健康面等をこまめに記入して家族に届けている。また、電話や面会時にも丁寧に状況を報告し、家族の思いに寄り添い潤滑油になれるように心掛けている。	
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人が訪ねてきた際のおもてなし等を通して、次回も訪ねやすい雰囲気作りを大切にしている。また手紙を出すための支援等も行っている。	利用者の半数以上は、入居する前は近くの街中に住んでおり、以前から通っていた美容室や商店等への個別の外出支援を大切にしている。街中の事業所としての利点を活かし、継続的な交流ができるよう支援に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	心身の状態や対人関係を観察しながら時には間に入り、和やかな雰囲気を作るように支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	お便り等を通して交流を続けている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	何気ない会話や言動の中にヒントを見つけ、思いに添った支援ができきるように心掛けていく。また家族からも情報や意見をいただく様にしている。	利用者から日々の生活、食事や入浴、外出支援等で本人の言葉や思いを話してくれる時があるので、その思いにより添った丁寧な支援が出来るよう意向の把握に努めている。	
24	(9-2)	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の本人、家族からの聞き取りや普段の会話の中から把握できるように努めている。	入居前の基本情報を大切に考えており、情報シートに記入し出来るだけ日々の関わりの中で、言葉や表情から汲みとることや面会時の家族から得た情報を取り入れるよう努めている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	居室担当者を中心に一人一人に目を向け、小さい気付きの積み重ね情報の共有をし個々の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画作成担当者は本人、家族、居室担当者から聞き取りを行い、定期及び必要時に検討会を開催している。	介護計画作成にあたっては、本人、家族の意見や思いを日々の関わりの中で聞き取り集約して、担当職員の意見も取り入れて作成している。介護の実践状況のチェックやモニタリングは定期的に行なわれ、利用者の状態の安定を図るよう努めている。	介護計画の見直しは、職員のモニタリングを中心に行なわれている現状がある。どのようなケアがその人にふさわしい生活に繋がるのかを、本人、家族と共有することが大切であり、今後は、本人、家族、担当職員等も参加するカンファレンスを開いて介護計画に反映させるよう期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録を個別に作成している。特変時等には別に記録し申し送りも行い情報の共有をしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	外部サービスの導入としてニチイの家事代行サービス通院介助等を活用している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議や自治会等を通して近隣住民の方からは入居者の様子を承知いただき、地域の夏祭り見物に際しては手を引いていただいたり椅子を用意いただいたり等、配慮いただいた。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診時には医療連携表を用いてホームでの様子をかかりつけ医に伝達し、適切な指示を仰ぐ等連携を図っている。	個別のかかりつけの医師や協力病院への受診の際は、本人の日々の様子やバイタルチェック表(医療連携表)を持参している。また、医師による往診や訪問看護師の定期訪問、そして訪問してくれる薬剤師からの投薬や保管のアドバイスを得るなど、街中にある事業所として医療関係者との連携が密に図られている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	契約している看護師が定期的に訪問して日頃の様子や状態を把握しやすいように専用の用紙を使いお互いに情報を共有している。また協力医とのカンファレンスにも参加いただき医師との連携もお願いしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療機関への情報提供やソーシャルワーカー等に対し情報交換や相談の機会を設けてもらう様にしている。入院中はできる限り面会に訪れる事で安心していただけるように配慮している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居前及び必要時に事業所のできる事の説明を行っている。心身の状況や様子の変化等については家族と情報を共有しかりつけ医との連携がとれる様に努めている。協力医とは定期的にカンファレンスを行い状態の変化等について情報の共有化を図っている。	入居時に事業所からの重度化や終末期に対する説明が行なわれている。事業所として医療との連携には、出来るだけの努力と情報の共有化に努めている。今後も、ナースパートナーとの連携や職員研修を取り入れていくと共に「重度化した場合の対応に関わる指針」の作成を検討している。	
34	(12-2)	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	AEDの講習を年に1度全職員が受講する事になっている。	法人で行なうAEDの講習会は全員が参加する予定になっているが、昨年の外部評価の結果に基づいて、全ての職員が事故や急変時の応急手当や初期対応を学び、実践出来る力を身につけることを具体的に計画し取り組んでいる。まだ課題の実行が途中のものもあるが、今後も継続して行なっていきたいと考えている。	
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を定期的実施している。	防火訓練は夜間想定も含め年2回行なわれている。運営推進会議で今までの避難場所であった近くの小学校が統合されることで、変更される予定がわかり、地域の方達と連携内容も含め現在検討中である。	今後は、新しく決まる地域の防災対策に沿って、水害、地震、その他の災害に対応できるようマニュアルの整備が必須である。また、地域住民との連携や協力を得ながら、利用者、地域住民参加の合同の対策や避難訓練実施が期待される。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	研修等を通して皆で考えた指針をスタッフルームの見える箇所に掲示している。	利用者の人格尊重、プライバシー保護については、事業所でみんなで決めた行動指針に基づき行動しているが、さらに研修を通じて「尊厳への配慮」「生活支援や具体的なケアでの配慮」「自己決定しやすい言葉掛け」等を掲げて、具体的に対応するよう努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	衣類を選ぶ時等、様々な場面で職員の方からも働きかけながら自己決定ができるように支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	「職員のペースではなく入居者様のペースで」という目標を掲げ実践しようと心がけているが、一日の流れの中では対応しきれない場面もある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	日々の着衣や外出の際のみだしなみ等、整えられる様に支援している。またお化粧品等についてもその人らしくいられる様、支援、配慮をしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜を切る、炒める、和える、盛り付け、配膳等々お願いする事が多いが、入居者様から「手伝おうか」と声を掛けていただく事あり。食事の準備等には複数の入居者様から関わっていただいている。	キッチンや食堂は明るく、利用者や職員が自然な動きや活動ができるよう工夫されている。テーブルメイトや座る場所へのさりげない配慮がなされ、利用者の意欲が発揮できる環境作りに努めている。また、職員も積極的に声かけをするなど、食事を楽しむことができるよう丁寧に支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食時の食事量のチェックや水分摂取量のチェックは一日を通して行っている。これを基に個々に応じて支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	個々の状態を見極め毎食後全員に歯磨きの支援を行っている(声掛け、促し、見守り、一部介助、全介助)。また、毎晩、義歯洗浄剤を使用する場合の支援も行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	失敗が少なくなる様、本人の動作や仕草で気付く事や時間を見て声掛けを行う等、支援をしている。	トイレが清潔である。臭いもなく、トイレ内の広さも身体状況に応じて色々あり使い易くできている。利用者には個別の排泄パターンにより支援を行い、その都度記録がなされている。職員の声かけや具体的な支援により、自立に向けた取り組みが行なわれていることが窺える。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取量のチェックは必ず行い、薬剤ばかりに頼る事の無いよう個々に応じた取り組みを行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	安全面や職員配置の問題もあり時間帯の制限はあるが、できる限り個々の希望やタイミングに合わせて入浴は行っている。	入浴は本人の好みの時間帯に入浴出来るよう工夫し支援している。入浴を拒む利用者が、家族の面会時に家族からの声かけがきっかけで入浴するようになったりするなど、利用者目線での配慮がなされており、いろんな工夫を常に心がけている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	基本的に自由に過ごしていただいている。レクリエーション等も強制する事なく個々の意思を尊重している。但し、夜間の睡眠を気持ちよくしていただく為に昼間の活動への参加促しは行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	居室担当者は薬剤情報の把握に努め、変化等があった際は全職員に発信し情報の共有を図っている。また、カンファレンスや医療連携表等でもかかりつけ医と連携を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の生活歴や日々の様子を観察し、会話等の中からヒントを見つけ楽しみや気分転換ができる様、個々に合わせた働きかけを行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	その日の天候や個々の気分に応じて外出の支援ができるように努めている。散歩や買い物等その都度気分転換を図っている。また希望に添えるよう家族に相談したり行事として立案するなど協力しながら支援している。	本人の希望に添った外出が出来るよう支援している。古くからの商店街で馴染みの店も多いので、近所の散歩やおやつやの買い物等の支援も行なわれている。また、本人、家族の意向で、週1回自費で外部の外出サービスを利用して、買い物やレストランでの外食を行なっている方もいる方もおられるなど、地域の特性を生かした生活の継続への支援が行なわれている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族よりお小遣いを預かっており必要な日用品、衣類等は、外出時に買い物ができるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の取り扱いの難しい方が多い為、取り次ぐ事や電話をかける為の支援はその都度職員が行っている。中には携帯電話を持っている方もいる。また、手紙の投函や必要物品の準備等の支援も行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関先に季節の花々を飾ったり季節感のある飾りをホール内に施すようにしている。装飾については派手すぎない柔らかい雰囲気物を飾るよう心掛けている。日中は日当たりが良く明るい空間となっている。	事業所全体が明るく清潔に清掃されており、トイレや各居室の入り口の引き戸も使い易く配慮されている。季節の壁飾りの色合いや大きさも工夫され、共有スペースのソファやイス等にも、それぞれ自分の居場所の確保と自分のペースで過ごし易いような支援と配慮が窺える。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用のスペースにはテーブル、イスの他ソファが置いてあり思い思いの場所で過ごせる様に配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具や道具等、自由にお持ちいただいている。	居室には使い慣れたタンスや写真(若い時の写真や子育ての思い出深い写真等)、化粧品等が置かれていて、まさしく「私の部屋」で居心地良く過ごされている様子が見受けられた。また、寝具やリネンの清潔な状態を保つため、本人家族の希望による選択肢も色々あり、心地よく暮らせる支援と工夫が窺える。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	料理作り、配膳、掃除、洗濯たたみ等、個々の「できること」「わかること」を活かし自立した生活が送れるように工夫している。		